

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.193

2015/12/15

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

晩秋の景色が冴えた2015



時雨の北部湿原 (15/11/24)



時雨の中央湿原 (15/11/26)



冬眠場所を探すモリアオガエル (15/11/26)

今年の秋の紅葉は 10 月中旬一部のコハウチワカエデの紅葉はまずまずであったものの、毎年 11 月中旬に美しく紅葉する四季の森も日照不足からか冴えなかった。その反面 11 月に入ってから時雨が多くなり、湿原の草紅葉が素晴らしく、加えて 2009 年以來のミヤマウメモドキの生り年となったため幻想的な光景が楽しめました。晩秋の景色は好天の日よりも降雨時か降雨直後の光量が少ないときがしっとりとして湿原に似合います。

高温の日が続いたこともあるのか保全作業中に北分岐下の尾根で冷雨の中を移動するモリアオガエル（♀）が見られました。バイカオウレン・シハイスマレ・タチツボスマレなどの季節外れの開花もありました。



大浦川のビワマスが今年は例年観察している場所に 11 月になっても遡上しておらず、降雨が少ないためかと思っていました。確かに遡上する 10 月初旬から降雨が少なかったのですが、大きな原因は途中の堰堤（ゴム製）が降水が少ないため流量が少なく水圧がかからないため下らないのが要因でした。堰堤に出向いてみると遡上するためジャンプする個体が沢山見られましたが、堰堤を越えることが出来ません。堰堤の下流には多くの婚姻色の個体が見られました。なんとか魚道を付けることが出来ないものかと・・・。



シカ糞粒調査(11/15)



ツキノワグマの糞(11/20)



ブナ播種(11/20)

今年はシカによる食害が減ったことは既報の通りですが、未だ未だ 2000 年代初頭の状態には戻っていません。森にどれくらいのシカが生息しているのかの推定の根拠になる糞粒調査を春に続いて実施しました。結果は春が 47.3 頭/km² に対して 43.7 頭/km² となり多少減少したものの未だ未だ多すぎるという結果になりました。来年以降も年 1 回の調査を継続します。

山門水源の森のブナは、2006 年・2011 年が生り年でした。この周期で考えると来年 2016 年が生り年となるはずですが、今年守護岩近くの巨木 1 本に多くの結実があり採取し楽舎に播種しました。



ユキバタツバキタグ付けのミーティング(12/05)



急斜面でのタグ付け(12/05)



阪大生も加勢に(12/06)



ヒノキの枝打ち(12/10)



阪大生・家族のテープ巻き(11/15)

今秋最も保全活動に日数を使ったのはユキバタツバキのタグ付けです。会員の保全活動の日はもちろんのこと、連日タグ付けに追われています。会員以外にも淡海森林クラブ・阪大生等の応援も頂きました。作業地には時折ツキノワグマの糞も見つかり長期滞在している様子がうかがえます（センサービデオにも写っている）。この合間をぬって枯死木伐採・枝打ち・テープ巻き・ササユリ防獣金網撤収作業等々を行いました。もちろん毎日のネット巡視も欠かせません。